

分野別 FD の実質化を目指した各学部等におけるニーズと今後の展望

吉田 博、上岡麻衣子、川野卓二
(徳島大学 総合教育センター)

1. はじめに

我が国では 2008 年に FD が義務化されて以降、FD の実施は急速に広まり、近年ではワークショップ型 FD の実施が増加し、各大学における専任教員の FD への参加率が議論されるようになった(文部科学省 2015)。FD の実施においては、かねてより実質的な FD が求められているが、特に分野別 FD プログラムの開発、実質化が課題であると指摘されている(文部科学省 2008)。教員のニーズに対応するためには、専門分野を対象を絞った FD が求められており(夏目 2010)、FD ニーズを調査、分析する研究も進められている(城間ほか 2013)。このように、学部や教員のニーズを把握し、それに合わせた FD を企画することが重要であることがわかる。

徳島大学においても、2016 年 8 月に示された「徳島大学大学改革プラン(案)」において、「各教育プログラムの遂行及び改良の観点から、そのニーズに合致したものに重点的により組む」と示されており、分野別 FD の実質化の必要性が謳われている。徳島大学では、各学部及び全学の FD 委員会が設置され、学部 FD 委員会委員長が全学 FD 委員会の構成員として加わり、全学 FD と学部等の FD が連携する体制をとっている。分野別 FD への期待が高まる今日において、組織的に学部等の FD ニーズを把握し、今後の FD への示唆を見出すことは、意義深いと考える。

徳島大学では、2014 年度からミドルレベルの FD として、「質保証のための分野別ワークショップ」を実施している。2016 年度は、学部等の FD を実質化するために、学部・学科等における FD の成果や課題・ニーズを抽出し、今後の対応、他組織との連携を具体的に検討するワークショップ(以下、質保証 WS2016)を実施した。

本研究は、徳島大学の学部等における FD ニーズや課題を整理するとともに、分野別 FD の実質

化に向けて実施した、質保証 WS2016 の意義を検証することで、今後の学部等 FD 及び全学 FD の在り方について示唆を与える。

2. 質保証のための分野別ワークショップ

2014 年度、2015 年度に実施した質保証のための分野別ワークショップは、徳島大学の教育改革と連動させ、カリキュラムマップ、科目ナンバリングの作成を行った(吉田 2015;赤池ほか 2016)。質保証 WS2016 では、常三島キャンパス、蔵本キャンパスでそれぞれワークショップを実施し、全部で 10 の学部・学科等の FD 委員がそれぞれ 1~3 名参加した。各学部等でグループを作り、総合教育センター教育改革推進部門の教員が支援を行いながら、ワークシートをもとに学部等の FD の成果や課題・ニーズを書き出した(図 1)。

3. 学部等における FD ニーズと課題

質保証 WS2016 において各学部等から全部で 65 のニーズと課題が挙げられた。これらの内容を分類した結果を表 1 に示した。

どの学部においても共通して挙げられたニーズや課題は、実施する FD の内容・回数・評価・参加者・ニーズ把握・形骸化に関するものであった。課題例として、「分野が広いため全体的な内容になってしまう」、「企画を立てても参加者が少ない」、「個々の教員の FD ニーズを把握すること」、「参加者を集めるための FD になっている」、「成果を検証できていない」などである。このような



図 1 ワークシート ; ワークの様子

表1 学部等におけるFDの課題・ニーズ

内容	項目数
FDの企画内容・実施回数・評価	13
FDの参加者（少ない・固定化）	10
新カリキュラム・学生への対応	10
FDニーズの把握不足・形骸化	7
教授法・教育力の不足	6
教員・担当者の負担・人員	6
教育プログラム、カリキュラムの評価・改善・対応	4
その他	9

課題に対しては、IR室が保有しているデータを有効的に活用することや、「教員の教育に対する意識調査」のデータを活用することが考えられる。その際に、総合教育センター教育改革推進部門が分析に関する支援を行うことができる。また、学部の枠を超えてFDプログラムを共有することで、幅広いニーズに対応することができる。例えば、授業設計の基本的な知識やスキルを習得する、全学FD推進プログラム「授業設計ワークショップ」を対象者以外にも開放し、部分的な参加や見学を可能にすることも考えられる。このような情報を学内の教員が共有できるように、学内の情報共有システムを積極的に活用し、戦略的な広報を行うことも有効であると考えられる。

次に、常三島キャンパスでは2016年度にすべての学部で改組を実施している。そのため、新しいカリキュラムや学生への対応が課題として挙げられた。改組を実施していない蔵本キャンパスにおいても、プログラム評価を課題に挙げる学部が複数見られた。徳島大学ではすべての学科・専攻・コースにおいてカリキュラムマップを作成している。これらを活用するとともに、カリキュラムマップの改訂を視野に入れた見直しの議論を積極的に行い、教員間で共通認識を持つことも重要である。

教員の教育力向上や教授法に関する情報提供については、学内限定ホームページで公開されている「学生の学習を促進する授業実践事例カード」の広報を行い、活用を促すことができる。また、全学FD委員会が中心となり、学部を超えたプログラムの共有を積極的に行うことも有効である。

4. 質保証WS2016の意義

質保証WS2016では、全参加者19名を対象にアンケートを実施し、18名から回答を得た。図2は4件法の設問の回答結果である。また、記述式の設問「本WSの良かった点があればお書き下さい。」では、12名から回答が得られ、「学部FDの状況を振り返ることができた」、「問題点を整理することができた」、「他学部の様子を知ることができた」という意見が多く挙げられた。これらの結果より、質保証WS2016は、学部等のFDを振り返り、学部を超えた情報共有を行う機会になったことが分かる。多くのFD担当者が、今後も実施すべきだと回答していることから、学部等FDを実質化させるために有効であったと考える。

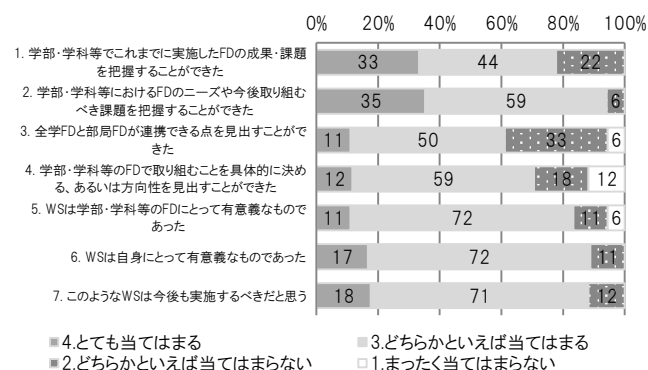


図2 ワークショップのアンケート結果 (N=18)

参考文献

- 1) 文部科学省 (2015) 「平成25年度の大学における教育内容等の改革状況について」, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2016/05/12/1361916_1.pdf (2016. 11. 4.)
- 2) 文部科学省 (2008) 「学士課程教育の構築に向けて」.
- 3) 夏目達也 (2011) 「大学教育の質保証方策としてのFDの可能性」, 名古屋高等教育研究, 第11号, 133-152.
- 4) 城間祥子ほか (2013) 「大学・短大・高専教員の研修ニーズとFDの課題」, 大学教育研究ジャーナル, 第10号, 67-79.
- 5) 吉田博 (2015) 「徳島大学総合教育センターによる教育改革とFD」, 大学教育学会誌, Vol. 37, No. 2, 187-188.
- 6) 赤池雅史ほか (2016) 「2015年度徳島大学FD推進プログラムの実施報告」, 大学教育研究ジャーナル, No. 13, 94-118.